令　和　６　年　度

登録販売者試験問題

（午前）

受験上の注意

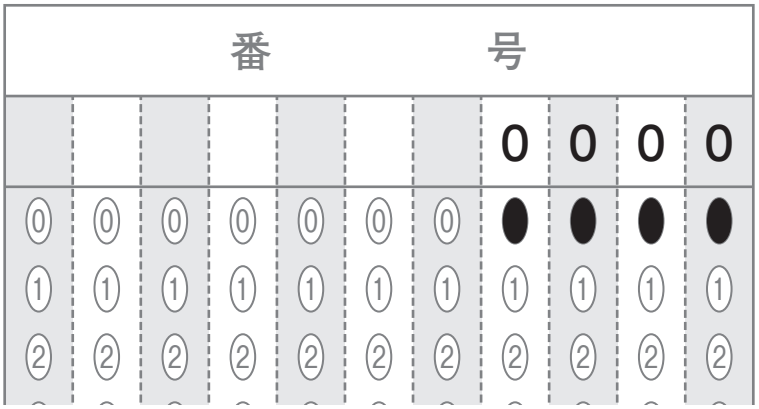
1　問題は60問で、解答時間は２時間である。

2　「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記する。

3　答案用紙（マークシート）の記入方法

⑴　答案用紙（マークシート）に氏名・フリガナと受験番号を記入し、受験番号をマークすること。受験番号は**右詰め**で記入すること。年月日欄には何も記入しないこと。

―― 例 ――



⑵　答えは答案用紙（マークシート）に記入すること。問題用紙に記入しても無効である。

⑶　各問題には答えの選択肢が１から４または５まであるが、適合する答えは**１つ**である。最も適当と思ったものを**１つ選び**、答案用紙にマークすること。２つ以上マークした場合は誤りとなる。

4　問題用紙の交錯・重複・落丁及び印刷不鮮明な場合は挙手をし、係員に申し出て交換すること。

5　試験が終了したら受験票及び問題用紙は持ち帰ること。

6　この問題の無断転載を禁ずる。

問１　医薬品の本質に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　一般用医薬品であっても医療用医薬品と同様に、科学的な根拠に基づく適切な理解や判断によって適正な使用が図られる必要がある。
ｂ　医薬品は生命関連製品で、有用性が認められたものであり、使用には保健衛生上のリスクを伴わない。
ｃ　医薬品は人の疾病の診断や治療に使用されるものであり、人の疾病の予防には使用されない。
ｄ　一般用医薬品は、一般の生活者においては、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問２　医薬品の本質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品の市販後は、その有効性や安全性等の確認が行われない。
ｂ　検査薬は、検査結果について正しい解釈や判断がなされなければ、適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。
ｃ　登録販売者は、健康被害の発生の可能性がある場合のみ、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売してはならない。
ｄ　登録販売者は、医薬品の有効性、安全性等に関して常に新しい情報の把握に努める必要がある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	誤	誤
２	正	誤	正	正
３	誤	正	誤	正
４	誤	正	正	誤
５	誤	誤	誤	正

問３　医薬品のリスク評価に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ＬＤ$_{50}$とは、動物実験により求められる５０％致死量のことであり、薬物の毒性の指標として用いられる。
ｂ　医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量-反応関係）に基づいて評価される。
ｃ　少量の医薬品の投与であれば、長期投与されても慢性的な毒性が発現することはない。
ｄ　ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準として、国際的にGood Clinical Practice（ＧＣＰ）が制定されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

問４　健康食品に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　健康増進や維持の助けになることが期待されるいわゆる「健康食品」は、あくまで食品であり、医薬品とは法律上区別される。
ｂ　「特定保健用食品」は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むもので、国の審査を受け許可されたものである。
ｃ　「栄養機能食品」は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的としたものである。
ｄ　一般用医薬品の販売時に健康食品の摂取の有無について確認することは重要である。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問５　セルフメディケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

１　セルフメディケーションの推進は、医療費の増加やその国民負担の増大を解決する重要な活動のひとつである。
２　登録販売者は、セルフメディケーションを推進するためにも、地域医療を支える医療スタッフなどとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進などに携わることが望まれる。
３　対象となる一般用医薬品の購入の対価について、条件を満たした場合、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入されている。
４　セルフメディケーション税制の対象となる一般用医薬品は、スイッチＯＴＣ医薬品のみである。

問６　アレルギー（過敏反応）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　内服薬だけでなく外用薬でも引き起こされることがある。
ｂ　医薬品の薬理作用と関係なく起こり得るものである。
ｃ　医薬品でアレルギーを起こしたことがない人は、病気等に対する抵抗力が低下している状態でもアレルギーを生じることはない。
ｄ　アレルギーには体質的・遺伝的な要素もあり、アレルギーを起こしやすい体質の人や、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	誤
２	誤	正	正	正
３	正	正	誤	正
４	誤	誤	正	誤
５	正	誤	誤	正

問７　医薬品の不適正な使用と副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　人体に直接使用されない医薬品は、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤っても、副作用にはつながらない。
ｂ　解熱鎮痛薬の長期連用で、肝臓や腎臓などの医薬品を代謝する器官を傷めることはない。
ｃ　一般用医薬品の長期連用で、精神的な依存がおこることはない。
ｄ　登録販売者は、医薬品の適正な使用が図られるよう、購入者等の理解力や医薬品を使用する状況等に即して説明すべきである。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	誤	正
2	誤	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	正	誤	正	誤

問８　医薬品の不適正な使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　医薬品は、定められた用量を意図的に超えて服用したり、みだりに他の医薬品や酒類等と一緒に摂取すると、急性中毒等の危険性が高くなる。
ｂ　青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分ではなく、好奇心から身近に入手できる医薬品を興味本位で乱用することがある。
ｃ　登録販売者は、必要以上の大量購入や頻回購入などを試みる者には、積極的に事情を尋ねる、状況によっては販売を差し控えるなどの対応を図ることが望ましい。
ｄ　医薬品は､その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問９　他の医薬品や食品との相互作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　相互作用は、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄（せつ）される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。
ｂ　医薬品と特定の食品を一緒に摂取した場合に、医薬品の薬理作用が減弱することがある。
ｃ　酒類（アルコール）をよく摂取する者では、肝臓の代謝機能が低下していることが多いため、体内から医薬品が速く消失して十分な薬効が得られなくなることがある。
ｄ　食品は、外用薬や注射薬の作用や代謝に影響を与えない。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問10　小児等の医薬品使用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」において、小児という場合には、おおよその目安として、７歳以上、１５歳未満という年齢区分が用いられている。
ｂ　小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が短く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
ｃ　家庭内において、医薬品は、小児が取り出しやすいように、容易に手に取れる場所や小児の目につく場所に置くことが重要である。
ｄ　５歳未満の幼児に使用される錠剤やカプセル剤などの医薬品は、服用時に喉につかえやすいので注意するよう添付文書に記載されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問11　プラセボ効果（偽薬効果）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医薬品を使用したとき、結果的又は偶発的に薬理作用を生じることをいう。
b　時間経過による自然発生的な変化（自然緩解など）は関与していないと考えられている。
c　プラセボ効果によってもたらされる反応や変化は、望ましいもの（効果）だけであり、不都合なもの（副作用）はない。
d　客観的に測定可能な変化として現れることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問12　一般用医薬品に関する以下の記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

一般用医薬品は、医薬品医療機器等法において「（　a　）のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が（　b　）ものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく（　c　）の選択により使用されることが目的とされているもの（要指導医薬品を除く。）」と定義されている。

	a	b	c
1	物質	著しい	販売者
2	物質	著しくない	需要者
3	医薬品	著しくない	需要者
4	医薬品	著しくない	販売者
5	医薬品	著しい	販売者

問13　医薬品の品質に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることも重要である。
2　医薬品が保管・陳列される場所については、清潔性が保たれるとともに、高温、多湿、直射日光等の下に置かれることのないよう、留意する必要がある。
3　医薬品は、適切に保管・陳列すれば、経時変化による品質の劣化を避けられる。
4　医薬品に表示されている使用期限は、未開封状態で保管された場合に品質が保持される期限である。

問14　登録販売者が一般用医薬品の購入者等から確認しておきたい事項に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　何のためにその医薬品を購入しようとしているか（購入者等のニーズ、購入の動機）。
b　その医薬品を使用する人が医療機関で治療を受けていないか。
c　その医薬品を使用する人が過去にアレルギーや医薬品による副作用等の経験があるか。
d　症状等がある場合、それはいつ頃からか、その原因や患部等の特定はなされているか。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問15　クロイツフェルト・ヤコブ病（ＣＪＤ）及びその訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　ヒト乾燥硬膜の原料が採取された段階でプリオンに汚染されている場合があり、プリオン不活化のための十分な化学的処理が行われないまま製品として流通し、脳外科手術で移植された患者にＣＪＤが発生した。
ｂ　細菌でもウイルスでもないリン脂質の一種であるプリオンが原因とされた。
ｃ　症状としては、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れや脱力、歩行困難が現れる。
ｄ　ＣＪＤ訴訟の和解後に、生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問16　亜急性脊髄視神経症（スモン）及びその訴訟等に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　スモンの原因となったキノホルム製剤には、整腸剤として販売されていた製品がある。
2　キノホルム製剤は、我が国では現在、アメーバ赤痢への使用に限定して販売されている。
3　スモン患者に対する施策や救済制度として、施術費及び医療費の自己負担分の公費負担、重症患者に対する介護事業等が講じられている。
4　サリドマイド訴訟、スモン訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

問17　ヒト免疫不全ウイルス（ＨＩＶ）訴訟に関する以下の記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ＨＩＶ訴訟は、血友病患者が、ＨＩＶが混入した（　　ａ　　）から製造された（　　ｂ　　）の投与を受けたことにより、ＨＩＶに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

本訴訟の和解を踏まえ、ＨＩＶ感染者に対する恒久対策のほか、製薬企業に対し従来の副作用報告に加えて（　　ｃ　　）の義務づけ等を内容とする改正薬事法が成立し、施行された。

	ａ	ｂ	ｃ
1	原料血漿（しょう）	免疫グロブリン製剤	感染症報告
2	原料血小板	血液凝固因子製剤	市販後の副作用情報の収集
3	原料血漿（しょう）	血液凝固因子製剤	感染症報告
4	原料血小板	免疫グロブリン製剤	市販後の副作用情報の収集
5	原料血漿（しょう）	免疫グロブリン製剤	市販後の副作用情報の収集

問18　Ｃ型肝炎訴訟に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

ａ　特定のフィブリノゲン製剤や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことが原因で、Ｃ型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。

ｂ　製薬企業及び医療機関を被告として、複数の地方裁判所で提訴された。

ｃ　Ｃ型肝炎ウイルス感染者の早期・一律救済の要請にこたえるべく、議員立法による特別措置法（平成２０年法律第２号）が制定、施行された。

ｄ　「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」を受け、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	誤	誤	正

問19　適切な医薬品選択及び受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても、症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
b　情報提供は、必ずしも医薬品の販売に結びつけるのでなく、医療機関の受診を勧めたり、医薬品の使用によらない対処を勧めることが適切な場合がある。
c　高熱や激しい腹痛がある場合など、症状が重いときに一般用医薬品を使用することは、一般用医薬品の役割にかんがみて適切な対処といえる。
d　通常の成人では、乳幼児や妊婦の場合に比べ、一般用医薬品で対処可能な症状等の範囲は限られる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	正	誤	正	正

問20　一般用医薬品の販売時のコミュニケーションに関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　購入者等が、宣伝広告や販売価格等に基づいて漠然と選択することがあることに留意しなければならない。
2　購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
3　情報提供を受ける購入者が医薬品を使用する本人で、かつ、現に症状等がある場合には、言葉によるコミュニケーションから得られる情報が最も信頼できるので、その人の状態や様子全般から得られる情報は必要がない。
4　情報提供は、単に専門用語を分かりやすい平易な表現で説明するだけでなく、説明した内容が購入者等にどう理解され、行動に反映されているか、などの実情を把握しながら行うことにより、その実効性が高まる。

問21　次の表は、ある一般用医薬品のかぜ薬に含まれている成分（一部抜粋）の一覧である。

９錠中	
クレマスチンフマル酸塩	１．３４ｍｇ
アセトアミノフェン	９００ｍｇ
グアヤコールスルホン酸カリウム	２４０ｍｇ
ノスカピン	４８ｍｇ
無水カフェイン	７５ｍｇ

このかぜ薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分		配合する目的
ａ	クレマスチンフマル酸塩	―	くしゃみや鼻汁を抑える
ｂ	アセトアミノフェン	―	咳（せき）を抑える
ｃ	グアヤコールスルホン酸カリウム	―	痰（たん）の切れを良くする
ｄ	ノスカピン	―	痛みを和らげる

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｄ）　４（ｃ、ｄ）

問22　第１欄の記述は、痛みが起こる仕組みに関するものである。（　　）の中に入れるべき字句は第２欄のどれか。

第１欄

（　　）はホルモンに似た働きをする物質で、病気や外傷があるときに活発に産生されるようになり、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。

第２欄

１　メラニン　２　ペプシン　３　リジン　４　ビリルビン
５　プロスタグランジン

問23　解熱鎮痛薬及びその配合成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱い。
b　解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものではない。
c　イブプロフェンは消化管粘膜の防御機能を低下させるため、胃・十二指腸潰瘍、クローン病等の既往歴がある人では、それら疾患の再発を招くおそれがある。
d　アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしにくい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問24　鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　呉茱萸湯（ごしゅゆとう）は、体力に関わらず使用でき、筋肉の急激な痙攣（けいれん）を伴う痛みのあるもののこむらがえり、筋肉の痙攣（けいれん）、腹痛、腰痛に適すとされる。
b　桂枝加朮附湯（けいしかじゅつぶとう）は、体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの関節痛、神経痛に適すとされる。
c　薏苡仁湯（よくいにんとう）は、体力中等度で、関節や筋肉のはれや痛みがあるものの関節痛、筋肉痛、神経痛に適すとされる。
d　芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）は、体力中等度以下で、手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔（おう）吐、しゃっくりに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問25　眠気を促す薬及び眠気に関連する物質に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。
b　生体内情報伝達物質であるヒスタミンは、脳の下部にある睡眠・覚醒（せい）に関与する部位で神経細胞の刺激を介して、覚醒（せい）の維持や調節を行う働きを担っている。
c　脳内におけるヒスタミン刺激が低下すると眠気を促すが、ニコチン酸アミドは、抗ヒスタミン成分の中でも特にこのような中枢作用が強い。
d　ブロモバレリル尿素は、妊婦又は妊娠していると思われる女性では使用を避けるべきである。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問26　カフェインに関する以下の記述について、（　　）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

カフェインは腎臓における（　a　）（同時に水分）の再吸収（　b　）があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。また、乳児は（　c　）が未発達なため、カフェインの代謝にはより多くの時間を要する。

	a	b	c
1	ナトリウムイオン	促進作用	腎臓
2	カリウムイオン	抑制作用	腎臓
3	ナトリウムイオン	促進作用	心臓
4	ナトリウムイオン	抑制作用	肝臓
5	カリウムイオン	抑制作用	肝臓

問27　乗物酔い防止薬及びその配合成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
b　ジメンヒドリナートは、乗物酔い防止薬に配合される抗ヒスタミン成分である。
c　メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが速く持続時間が短い。
d　乗物酔い防止薬は、主として吐きけを抑えることを目的とした成分も配合されるが、つわりに伴う吐きけへの対処として使用することは適当でない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問28　鎮咳去痰薬に配合される成分に関する以下の記述のうち、正しいものはどれか。

1　ジプロフィリンは、主に延髄の咳嗽中枢に作用し咳を抑える成分である。
2　エチルシステイン塩酸塩は、主に気管支を拡張させる成分であり、中枢神経系を興奮させる作用を示し、甲状腺機能障害の診断を受けた人では、症状の悪化を招くおそれがある。
3　デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、主に痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させることで、痰の切れを良くする成分である。
4　カンゾウは、抗炎症作用のほか、気道粘膜からの粘液分泌を促す等の作用も期待して用いられる生薬である。

問29　口腔(くう)咽喉薬及びうがい薬（含嗽(そう)薬）に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　口腔(くう)咽喉薬は、口腔(くう)内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするものである。
b　含嗽(そう)薬は、口腔(くう)及び咽頭の殺菌・消毒・洗浄、口臭の除去等を目的として、用時水に希釈又は溶解してうがいに用いる、又は患部に塗布した後、水でうがいする外用液剤である。
c　含嗽(そう)薬は、調製した濃度が濃ければ濃いほど効果が得られる。
d　口腔(くう)咽喉薬及び含嗽(そう)薬は、成分の一部が口腔(くう)や咽頭の粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがあるため、配合成分によっては注意を要する場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

問30　次の表は、ある一般用医薬品の胃に作用する薬に含まれている成分（一部改変）の一覧である。

９錠中	
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	３６０ｍｇ
炭酸水素ナトリウム	４８０ｍｇ
ウイキョウ	３０ｍｇ
チョウジ	３０ｍｇ
リパーゼ	６０ｍｇ
銅クロロフィリンナトリウム	４８ｍｇ

この胃に作用する薬に含まれる成分とその成分を配合する目的との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	成分		配合する目的
ａ	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	―	中和反応によって胃酸の働きを弱める
ｂ	ウイキョウ	―	荒れた胃粘膜の修復を促す
ｃ	銅クロロフィリンナトリウム	―	香りによる健胃作用
ｄ	リパーゼ	―	脂質の分解に働く酵素を補う

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｃ、ｄ）

問31　止瀉(しゃ)薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　収斂(れん)成分を主体とする止瀉(しゃ)薬は、腸の運動を鎮める作用があり、細菌性の下痢や食中毒のときの下痢症状を鎮めるのに適している。
b　次硝酸ビスマスは、牛乳にアレルギーがある人では使用を避ける必要がある。
c　ロペラミド塩酸塩は、副作用としてめまいや眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
d　腸内殺菌成分の入った止瀉(しゃ)薬は、下痢の症状が出る前に服用することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問32　腸に作用する薬の使用及び受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の使用中に原因が明確でない下痢や便秘を生じた場合は、安易に止瀉(しゃ)薬や瀉(しゃ)下薬によって症状を抑えようとせず、その医薬品の使用を中止して、医師や薬剤師などの専門家に相談するよう説明すべきである。
b　過敏性腸症候群の便通障害のように下痢と便秘が繰り返し現れるものもあり、症状が長引くような場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
c　下痢に発熱を伴う場合は、安易に止瀉(しゃ)薬を用いて症状を一時的に鎮めようとするのでなく、早期に医療機関を受診して原因の特定、治療をすべきである。
d　瀉(しゃ)下薬が手放せなくなっているような慢性の便秘については、漫然と継続使用するよりも、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問33　駆虫薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫である。
b　食事を摂って消化管内に内容物があるときに使用すると、消化管内容物の消化・吸収に伴って、駆虫成分の吸収が高まることから、空腹時に使用することとされているものが多い。
c　パモ酸ピルビニウムは、水に溶けにくいため消化管からの吸収は少ないとされているが、ヒマシ油との併用は避ける必要がある。
d　ピペラジンリン酸塩は、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問34　心臓の働き及び心臓に作用する生薬の作用に関する以下の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

心臓は、血液を全身に循環させるポンプの働きを担っているが、通常、(　a　)によって無意識のうちに調整がなされており、激しい運動をしたり、興奮したときなどの動悸や息切れは、正常な健康状態でも現れる。
ロクジョウは、(　b　)に作用して、その収縮力を(　c　)作用を期待して用いられる生薬である。

	a	b	c
1	運動神経系	平滑筋	高める
2	運動神経系	心筋	抑える
3	運動神経系	心筋	高める
4	自律神経系	心筋	高める
5	自律神経系	平滑筋	抑える

問35　心臓に作用する薬及びその成分等に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　ジャコウは、強心作用を期待して用いられる生薬である。
b　センソが配合された錠剤は、効果を高めるために口中で噛(か)み砕いて服用する必要がある。
c　苓桂朮甘湯(りょうけいじゅつかんとう)は、強心作用が期待される生薬は含まれず、主に利尿作用がある。
d　ゴオウは、末梢血管の収縮による血圧上昇や興奮作用がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	正

問36　ある店舗販売業の店舗で販売している２種類の高コレステロール改善薬の配合成分（一部改変）は、以下のとおりである。

高コレステロール改善薬Ａ	高コレステロール改善薬Ｂ
６カプセル中	２カプセル中
パンテチン　３７５ｍｇ	リボフラビン酪酸エステル　６０ｍｇ
大豆油不けん化物　６００ｍｇ	
トコフェロール酢酸エステル　１００ｍｇ	

この２種類の高コレステロール改善薬に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　高コレステロール改善薬Ａは、腸管におけるコレステロールの吸収を抑えたり、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害を緩和する作用がある。
b　高コレステロール改善薬Ａは、悪心や胃部不快感等の副作用が現れることがある。
c　高コレステロール改善薬Ｂを服用すると尿が黄色くなることがあるので、その場合はすぐに使用を中止する必要がある。
d　高コレステロール改善薬は、一般に痩(そう)身効果を目的とする医薬品でもある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問37　貧血に関する以下の記述について、（　　）の中に入れるべき字句として正しいものはどれか。なお、（　　）内は全て同じ字句が入る。

鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要な（　　）の産生に不可欠なミネラルである。鉄分の摂取不足を生じても、初期には貯蔵鉄や血清鉄が減少するのみで（　　）量自体は変化せず、ただちに貧血の症状は現れない。しかし、持続的に鉄が欠乏すると、（　　）が減少して貧血症状が現れる。

１　グロブリン　　２　アルブミン　　３　ヘモグロビン　　４　フィブリン
５　マクロファージ

問38　貧血用薬の配合成分及び副作用に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

ａ　貧血用薬は、消化器系への副作用を軽減するため、食前に服用することが望ましい。
ｂ　コバルトは、赤血球ができる過程で必要不可欠なビタミンＢ１２の構成成分であり、骨髄での造血機能を高める目的で、硫酸コバルトが配合されている場合がある。
ｃ　ビタミンＢ６は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
ｄ　貧血用薬の主な副作用として、悪心、嘔（おう）吐、食欲不振、胃部不快感、腹痛、便秘、下痢等の胃腸障害が知られている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問39　次の１～５で示される成分のうち、鉄製剤の服用前後３０分に摂取すると鉄の吸収が悪くなることがあるため、服用前後に摂取を控えるべきとされているものはどれか。

１　β－カロテン　　２　タンニン酸　　３　リノール酸　　４　葉酸
５　アスコルビン酸

問40　循環器用薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　コウカは、末梢の血行を促してうっ血を除く作用があるとされる。
b　ユビデカレノンは、心筋の酸素利用効率を高めて収縮力を高めることによって、血液循環の改善効果を示すとされる。
c　ルチンは、ニコチン酸を遊離させ、そのニコチン酸の働きによって、末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。
d　七物降下湯（しちもつこうかとう）は、生薬成分であるダイオウを含み、体の虚弱な人、胃腸が弱く下痢しやすい人、だらだら出血が長引いている人では激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

問41　外用痔（じ）疾用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　カンフルは、局所麻酔成分であり、痔（じ）に伴う痛み・痒（かゆ）みを和らげることを目的として、配合されている場合がある。
b　グリチルレチン酸は、比較的緩和な抗炎症作用を示す成分として、配合されている場合がある。
c　ジフェンヒドラミンは、抗ヒスタミン成分であり、痔（じ）に伴う痒（かゆ）みを和らげることを目的として、配合されている場合がある。
d　タンニン酸は、痔（じ）疾患に伴う局所の殺菌消毒を目的として、配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	正	誤

問42　泌尿器用薬として使用される漢方処方製剤に関する以下の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

(　　a　　)は、体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が乾くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

(　　b　　)は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

(　　c　　)は、体力中等度以下で、疲れやすくて、四肢が冷えやすく、尿量減少又は多尿でときに口渇があるものの下肢痛、腰痛、しびれ、高齢者のかすみ目、痒(かゆ)み、排尿困難、残尿感、夜間尿、頻尿、むくみ、高血圧に伴う随伴症状の改善、軽い尿漏れに適すとされるが、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実している人では、のぼせ、動悸(どうき)等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

	a	b	c
1	八味地黄丸(はちみじおうがん)	猪苓湯(ちょれいとう)	竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)
2	猪苓湯(ちょれいとう)	竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)	八味地黄丸(はちみじおうがん)
3	竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)	猪苓湯(ちょれいとう)	八味地黄丸(はちみじおうがん)
4	八味地黄丸(はちみじおうがん)	竜胆瀉肝湯(りゅうたんしゃかんとう)	猪苓湯(ちょれいとう)

問43　月経及び婦人薬の適用対象となる症状に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　血の道症とは、臓器・組織の形態的異常があり、抑うつや寝つきが悪くなる、神経質、集中力の低下等の精神神経症状が現れる病態のことである。

b　月経前症候群とは、月経の約１０～３日前に現れ、月経開始と共に消失する腹部膨満感、頭痛、乳房痛などの身体症状や感情の不安定、抑うつなどの精神症状を主体とするものをいう。

c　月経周期には、視床下部や下垂体で産生されるホルモンと、卵巣で産生される女性ホルモンが関与する。

d　女性の月経は、卵巣の内壁を覆っている膜が剥(は)がれ落ち、血液（経血）と共に排出される生理現象である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問44　婦人薬の相互作用及び受診勧奨に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　医師の治療を受けている人では、婦人薬を使用する前に、その適否につき、治療を行っている医師又は処方薬の調剤を行った薬剤師に相談がなされるべきである。
b　内服で用いられる婦人薬では、通常、複数の生薬成分が配合されている場合が多く、他の婦人薬、生薬成分を含有する医薬品が併用された場合、効き目が強すぎたり、副作用が起こりやすくなるおそれがある。
c　更年期障害の不定愁訴とされるのぼせやほてり等の症状については、心臓や甲状腺の病気でも起こることがあり、そのような原因が見出された場合には、その治療が優先される必要がある。
d　月経以外の不規則な出血（不正出血）がある場合には、すみやかに医療機関を受診して専門医の診療を受けるなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	誤	正	誤

問45　アレルギー（過敏反応）及び内服アレルギー用薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　アレルゲン（抗原）が皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識した免疫グロブリン（抗体）によって肥満細胞が刺激され、ヒスタミンやプロスタグランジン等の物質が遊離する。
b　トラネキサム酸は、皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、配合されている場合がある。
c　抗ヒスタミン成分として、フェニレフリン塩酸塩が配合されている場合がある。
d　クロルフェニラミンマレイン酸塩は、交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を収縮させることによって、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、配合されている場合がある。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問46　鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　一般用医薬品の鼻炎用点鼻薬の対応範囲は、蓄膿(のう)症などの慢性のものであり、急性又はアレルギー性の鼻炎及びそれに伴う副鼻腔(くう)炎は対象となっていない。
b　セチルピリジニウム塩化物は殺菌消毒成分であるが、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌には効果がない。
c　リドカイン塩酸塩は、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒(かゆ)みを抑えることを目的として、配合される場合がある。
d　クロモグリク酸ナトリウムの使用は、減感作療法等のアレルギーの治療の妨げになるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

問47　眼科用薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　点眼薬１滴の薬液の量は約５０μＬであるのに対して、結膜嚢(のう)の容積は３０μＬ程度とされており、一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではない。
b　通常、ソフトコンタクトレンズは水分を含みやすいが、防腐剤などの配合成分がレンズに吸着されるおそれはない。
c　点眼薬は、結膜嚢(のう)に適用するものであるため、通常、無菌的に製造されている。
d　一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	誤	正
5	誤	正	正	正

問48　眼科用薬の配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　アラントインは、局所麻酔成分であり、痛みや痒(かゆ)みを和らげることを目的として配合されている。
b　精製ヒアルロン酸ナトリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを目的として配合されている。
c　パンテノールは、末梢の微小循環を促進させることにより、結膜充血、疲れ目の症状を改善する効果を期待して配合されている。
d　ホウ酸は、防腐効果を期待して、配合されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問49　皮膚に用いる薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　外皮用薬は、皮膚表面に生じた創傷や症状、又は皮膚の下にある毛根、血管、筋組織、関節等の症状を改善・緩和するため、外用局所に直接適用される医薬品である。
b　殺菌消毒薬は、日常の生活において生じる、比較的小さなきり傷、擦り傷、掻(か)き傷等の創傷面の化膿(のう)を防止すること、又は手指・皮膚の消毒を目的として使用される。
c　非ステロイド性抗炎症成分は、妊婦又は妊娠していると思われる女性では、原則使用を避けるべきである。
d　ステロイド性抗炎症成分は、末梢組織の免疫機能を上昇させる作用を示すため、主に化膿(のう)している患部へ使用される。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	正	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	誤	正	誤

問50　外皮用薬の配合成分の副作用に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　インドメタシンの副作用として、適用部位の皮膚に、ヒリヒリ感、熱感、乾燥感が現れることがある。
b　ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間及び使用後当分の間は、塗布部が紫外線に当たるのを避ける必要がある。
c　ピロキシカムの副作用として、腫れ、かぶれ、水疱（ほう）、落屑（せつ）（皮膚片の細かい脱落）が現れることがある。
d　フェルビナクは、アスピリン喘（ぜん）息を起こしたことがある人では、使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	誤	正	誤	誤

問51　第１欄の記述は、外皮用薬の配合成分に関するものである。（　　）の中に入れるべき字句は第２欄のどれか。

第１欄
（　　）は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。単独での抗真菌作用は弱いため、他の抗真菌成分と組み合わせて配合される。

第２欄
1　テルビナフィン塩酸塩　　2　バシトラシン　　3　ピロールニトリン
4　クロラムフェニコール　　5　スルファジアジン

問52　歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ジブカイン塩酸塩は、齲蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して、痛みを鎮めることを期待して配合されている。
b　オイゲノールは、冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して配合されている。
c　サンシシは、抗炎症作用を期待して配合されている。
d　カルバゾクロムは、歯肉溝での細菌の繁殖を抑えることを期待して配合されている。

1（a、b）　2（a、c）　3（b、c）　4（b、d）　5（c、d）

問53　口内炎及び口中に用いる薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　口内炎用薬であれば、ステロイド性抗炎症成分が配合されていても、長期の連用は問題ない。
b　歯槽膿漏薬としては、患部局所に適用する外用薬のほか、内服で用いるものもある。
c　口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足などが要因とされている口腔粘膜の炎症であり、ウイルスによって生じることはない。
d　口内炎が再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	誤	正

問54　禁煙補助剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　咀嚼剤は、菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい、吐きけや腹痛等の副作用が現れやすくなるため、ゆっくりと断続的に噛むこととされている。
b　禁煙補助剤は、喫煙を完全に止めたうえ使用することとされている。
c　母乳を与えている女性は、禁煙することが推奨されるので、禁煙補助剤を使用することが望ましい。
d　口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が上昇するため、コーヒーなど口腔内を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは咀嚼剤の使用を避けることとされている。

1（a、b）　2（a、d）　3（b、c）　4（c、d）

問55　ビタミン主薬製剤に関する以下の記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

a　ビタミンA主薬製剤は、骨歯の発育不良、くる病の予防に用いられる。
b　ビタミンC主薬製剤は、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために用いられる。
c　ビタミンB１主薬製剤は、神経痛、筋肉痛・関節痛などの症状の緩和に用いられる。
d　ビタミンE主薬製剤は、末梢血管障害による肩・首すじのこり、手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和に用いられる。

1（a、c）　2（a、d）　3（b、c）　4（b、d）　5（c、d）

問56　滋養強壮保健薬及びその成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドの代謝を促す働きがあるとされている。
b　タウリンは、筋肉や脳、心臓、目、神経等、体のあらゆる部分に存在し、細胞の機能が正常に働くために重要な物質である。
c　ナイアシンは、皮膚や粘膜などの機能を維持することを助ける成分である。
d　グルクロノラクトンは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分で、ビタミンＥ等と組み合わせて配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問57　漢方の特徴・漢方薬使用における基本的な考え方に関する以下の記述のうち、誤っているものはどれか。

1　漢方薬を使用する場合、漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
2　漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後３ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
3　漢方処方製剤は、生薬を組み合わせて配合された医薬品で、個々の有効成分（生薬成分）の薬理作用を主に考えて、それらが相加的に配合されたものである。
4　漢方の病態認識には虚実、陰陽、気血水、五臓などがある。

問58　生薬成分と期待する効果との関係について、正しいものの組み合わせはどれか。

	生薬成分		期待する効果
a	サンザシ	—	健胃、消化促進作用
b	ブクリョウ	—	解熱、鎮痙（けい）作用
c	レンギョウ	—	鎮痛、抗菌作用
d	ブシ	—	健胃、消化促進作用

1（a、b）　2（a、c）　3（b、d）　4（c、d）

問59　消毒薬及びその配合成分に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　次亜塩素酸ナトリウムは、アルカリ性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

b　クレゾール石ケン液は、結核菌を含む一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対して殺菌消毒作用を示す。

c　手指又は皮膚の殺菌・消毒を目的とする消毒薬のうち、配合成分やその濃度等があらかじめ定められた範囲内である製品については、医薬部外品として流通することが認められている。

d　エタノールは、脱脂による肌荒れを起こしやすい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

問60　一般用検査薬に関する以下の記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

a　通常、尿は弱酸性であるが、食事その他の影響で中性～弱アルカリ性に傾くと、尿糖及び尿タンパクの正確な検査結果が得られなくなることがある。
b　妊娠検査薬は、検査結果をもって、妊娠しているか否かを断定することができる。
c　妊娠検査薬は、尿中のヒト絨(じゅう)毛性性腺刺激ホルモン（ｈＣＧ）の有無を調べるものである。
d　一般用検査薬が高温になる場所に放置されたり、冷蔵庫内に保管されていたりすると、設計どおりの検出感度を発揮できなくなるおそれがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	正	正
5	正	正	誤	誤